

スポーツ学部 こどもスポーツ教育学科 カリキュラムフローチャート(2024年度以降入学生)

学部共通科目 児童教育科目 スポーツ教育科目 セミナール科目 スポーツ実技科目 ◎：必修科目 ●：選択科目 []：単位数

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 最低修得単位数 | 卒業要件単位数 | | |
|----------|---|----|---|----|--|----|---|----|---|---------|---------------------|--------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | |
| 総合共通科目 | 文化・芸術領域：●ことばと日本文化[2]、●スポーツの文化[2]、●ことばと異文化[2]、●情報文化論[2] 歴史・社会領域：●歴史と国際情勢[2]、●現代国家と法(日本国憲法)[2]、●暮らしと経済[2]、●人権・同和教育[2] 人間・環境領域：●人間と哲学[2]、●生命と地球[2]、●心の科学[2]、●共生社会を生きる[2] | | | | | | | | | | 6単位以上 (各領域2単位以上) | 30単位以上 |
| | ◎英語Ⅰ[1] ●中国語Ⅰ[1] ●韓国語Ⅰ[1] ◎英語Ⅱ[1] ●日本語表現Ⅰ[1] ●中国語Ⅱ[1] ●韓国語Ⅱ[1] ◎英語コミュニケーションⅠ[1] ●実用英語[1] ●日本語表現Ⅱ[1] ●中国語Ⅲ[1] ●実用中国語[1] ●韓国語Ⅲ[1] ●実用韓国語[1] ◎英語コミュニケーションⅡ[1] ●日本語表現Ⅲ[1] ●中国語Ⅳ[1] ●韓国語Ⅳ[1] | | | | | | | | | | 6単位以上 (必修2単位) | |
| | ◎データサイエンス入門[1] ◎情報処理演習Ⅰ[1] ●情報処理演習Ⅱ[1] ●情報処理演習Ⅲ[1] | | | | | | | | | | 2単位以上 (必修2単位) | |
| | ◎キャリア基礎演習Ⅰ[1] ◎キャリア基礎演習Ⅱ[1] ◎キャリア基礎演習Ⅲ[1] ●インターンシップ(企業研修)[2] ◎キャリアデザインⅠ[1] ◎キャリアデザインⅡ[1] ●スキルアップ講座B(TOEICⅠ)[1] ●スキルアップ講座C(TOEICⅡ)[1] ●スキルアップ講座A(ITパスポート)[1] ●スキルアップ講座G(公務員養成Ⅰ)[1] ●スキルアップ講座R(TOEICⅢ)[1] ●スキルアップ講座H(公務員養成Ⅱ)[1] ●スキルアップ講座S(TOEICⅣ)[1] | | | | | | | | | | 5単位以上 (必修5単位) | |
| 学部共通科目 | ●解剖生理学[2] ●スポーツ運動学(運動方法を学ぶ。)[2] ◎スポーツ指導論[2] | | ●スポーツ生理学[2] ●スポーツバイオメカニクス[2] ●スポーツ社会学[2] ●スポーツ心理学[2] | | ●安全・健康管理[2] ●スポーツ栄養学[2] | | ●体力トレーニング論[2] | | ●レクリエーション論[2] | | 6単位以上 (必修2単位) | 124単位 |
| 児童教育科目 | ◎体育科教育概論[2] | | ◎国語科教育概論(書きを含む。)[2] ◎社会科教育概論[2] ◎算数科教育概論[2] ●音楽科教育概論[2] | | ◎理科教育概論[2] ●国語科指導法[2] ●社会科指導法[2] ●算数科指導法[2] ●図画工作指導法[2] | | ●児童英語概論[2] ●理科指導法[2] ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅰ[1] | | ●生活科指導法[2] ●音楽科指導法[2] ●家庭科指導法[2] ●体育科指導法[2] ●児童英語指導法[2] ●水泳指導法[2] ●ダンス指導法[2] ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅱ[1] | | 22単位以上 (必修10単位) | |
| スポーツ教育科目 | ●衛生学及び公衆衛生学[2] ◎スポーツ教育概論[2] | | ●ジュニアスポーツ論[2] ●救急処置[2] | | ●学校体育のマネジメント[2] ●学校体育指導演習[2] ●学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)[2] ●精神保健[2] ●ジュニアスポーツ指導演習[2] | | ●器械運動指導法(体づくり運動を含む。)[1] ●学校保健Ⅱ(小児保健を含む。)[2] | | ●陸上競技指導法[1] ●球技指導法A[1] ●球技指導法B[1] ●武道指導法[1] ●学校保健指導演習[2] | | 10単位以上 (必修2単位) | |
| ゼミナール科目 | ◎ゼミナールⅠ[2] ◎ゼミナールⅡ[2] ◎ゼミナールⅢ[2] ◎ゼミナールⅣ[2] ◎キャリア発展ゼミナール[4] 卒業研究の作成 | | | | | | | | | | 必修12単位 | |
| スポーツ実技科目 | ●体操(体づくり運動を含む。)[1] ◎陸上競技A[1] ●バスケットボール[1] ●サッカー[1] | | ●器械運動[1] ●陸上競技B[1] ◎水泳[1] ◎バレーボール[1] ●バドミントン[1] ●ダンス[1] ●剣道[1] ●柔道[1] | | ●ソフトボール・野球[1] ●テニス[1] | | ●ハンドボール[1] ●ラグビー[1] | | ●レクリエーション実技[1] | | 4単位以上 (必修2単位) | |
| 自由選択科目 | ●教職論[2] ●教育原論[2] | | ●教育心理学[2] ●特別支援教育概論[1] ●教育制度論[2] | | ●教育課程論[2] ●教育相談[2] | | ●特別活動・総合的な学習の時間指導法[2] ●生徒・進路指導論[2] | | ●道徳教育指導法[2] ●教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)[2] ●教育実習(小)[4] | | 18単位以上 | |
| 自由科目 | 他学部・他学科等の科目 | | | | | | | | | | 卒業要件単位に含まれない科目 | |

卒業認定・学位授与の方針(DP)
 こどもスポーツ教育学科は、総合的な教養、児童・生徒に対する教育の専門知識を身に付け、スポーツの文化に関する幅広い知識を基盤とした確かな実践力と高い適応性を有する教育者・支援者を養成することを旨とする。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

【知識・技能】
 学士(こどもスポーツ教育学)として幅広い教養を身に付け、児童・生徒に対する教育の専門知識とスポーツの文化を伝える技能を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】
 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、礼節を重んじ高い力量をもつ教育者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身に付けている。

【主体性・協働性・倫理性】
 実践力を備えた教育者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身に付けている。